

JALグループ 2026年3月期 第3四半期連結業績

JALグループは、本日2026年3月期第3四半期業績(2025年4月1日～12月31日)について取りまとめました。

- 売上収益は、航空事業、非航空事業ともに前年を上回り、1兆5,137億円(前年比+9.2%)となり、第3四半期累計で再上場後の最高収益を達成しました。
- EBITは、1,791億円(前年比+24.2%)となり、第3四半期累計で過去最高益を達成しました。
- 通期業績予想の達成に向け順調に推移しており、さらなる業績の伸長に努めてまいります。

1. JALグループ連結業績

当第3四半期において、売上収益は前年比+9.2%の1兆5,137億円となりました。営業費用については、収入に連動する費用の増加や物価高、人的資本投資などにより、前年比+8.4%の1兆3,589億円となりました。

以上の結果、EBITは1,791億円(前年比+24.2%)、純利益は1,137億円(前年比+24.9%)となりました。

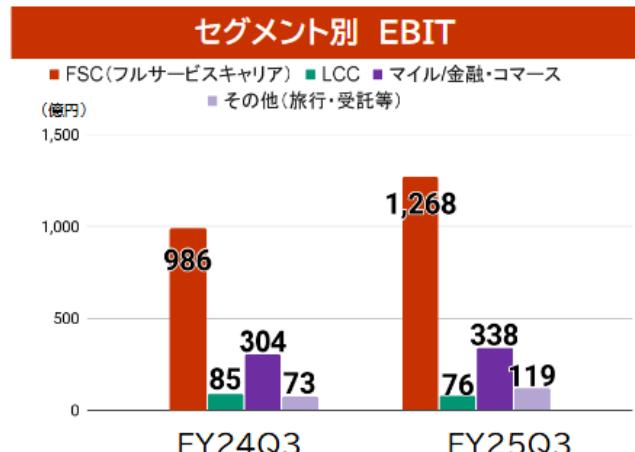
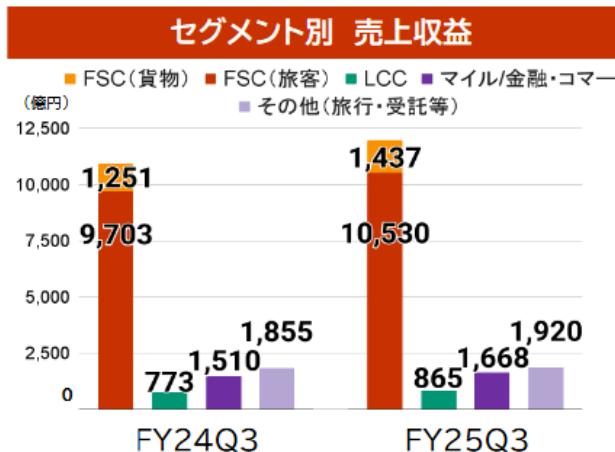
(単位:億円)	累計				単独		
	FY24Q3	FY25Q3	前年同期差	前年同期比	FY25Q3	FY24Q3	
						同期差	同期比
売上収益	13,859	15,137	+1,278	+9.2%	5,298	+457	+9.4%
営業費用	12,537	13,589	+1,051	+8.4%	4,681	+386	+9.0%
燃油費	2,844	2,974	+130	+4.6%	1,036	+115	+12.6%
燃油費以外	9,693	10,615	+921	+9.5%	3,645	+271	+8.0%
その他収支(1)	121	243	+122	+101.0%	77	+37	+97.2%
EBIT	1,442	1,791	+348	+24.2%	694	+108	+18.5%
EBITマージン(%)	10.4%	11.8%	+1.4pt	-	13.1%	+1.0pt	-
純利益	910	1,137	+226	+24.9%	460	+49	+12.0%

(1) その他収支=航空機材売却益・その他の収入・持分法投資損益・投資収支



2. セグメント別実績

フルサービスキャリア、マイル/金融・コマース事業およびその他非航空事業について、前年から増収増益となりました。



FY25Q3単独		FSC(フルサービスキャリア)		LCC	マイル/金融・コマース	その他(旅行・受託等)
売上収益		3,688(旅客)	527(貨物)	274	589	640
前年同期差		+304	+73	+37	+64	▲10
EBIT		506		6	127	54
前年同期差		+88		▲1	+17	+4

注: セグメント別実績における売上収益およびEBITはセグメント間連結消去前数値です。

【フルサービスキャリア事業】

好調な国際旅客の取り込み、柔軟なレバニューマネジメントによる国内旅客の確保、貨物機ネットワーク拡充による貨物需要の獲得などにより、売上収益は前年比+9.2%の1兆1,967億円となり、EBITは前年比+28.6%の1,268億円となりました。

■国際旅客

好調なインバウンド需要と緩やかに回復する日本発のビジネス需要を取り込み、Q3単独では旅客数と単価のいずれも堅調に推移しました。

この結果、旅客数が前年比+8.2%の増加となり、旅客収入は前年比+9.1%の増収となりました。

国際旅客事業	累計			単独	
	FY24Q3	FY25Q3	前年同期比	FY25Q3	前年同期比
旅客収入(億円)	5,186	5,657	+9.1%	1,979	+11.1%
有償旅客数(千人)	5,557	6,012	+8.2%	2,025	+4.6%
RPK(百万人キロ)	30,999	34,160	+10.2%	11,597	+8.2%
ASK(百万席キロ)	37,447	39,946	+6.7%	13,567	+6.7%
有償座席利用率(%)	82.8%	85.5%	+2.7pt	85.5%	+1.2pt
単価(円)(1)	93,334	94,094	+0.8%	97,741	+6.2%

(1) 単価=旅客収入/有償旅客数

■国内旅客

高い有償座席利用率を背景にレバニューマネジメントが奏功し、Q3単独では旅客数と単価のいずれも堅調に推移しました。

この結果、旅客数が前年比+7.4%の増加となり、旅客収入は前年比+7.3%の増収となりました。

国内旅客事業	累計			単独	
	FY24Q3	FY25Q3	前年同期比	FY25Q3	前年同期比
旅客収入(億円)	4,338	4,654	+7.3%	1,633	+6.5%
有償旅客数(千人)	26,897	28,878	+7.4%	9,752	+1.5%
RPK(百万人キロ)	20,552	22,084	+7.5%	7,460	+1.8%
ASK(百万席キロ)	26,497	26,408	▲0.3%	8,772	▲0.8%
有償座席利用率(%)	77.6%	83.6%	+6.1pt	85.0%	+2.1pt
単価(円)(1)	16,130	16,118	▲0.1%	16,747	+4.9%

(1) 単価=旅客収入/有償旅客数



■貨物郵便

国際線は、成長著しいアジア＝北米間の貨物需要を獲得し、前年比+19.3%の増収となりました。

国内線では、新規顧客の獲得に取り組み、前年比+7.5%の増収となりました。

国際貨物事業	累計			単独	
	FY24Q3	FY25Q3	前年同期比	FY25Q3	前年同期比
貨物収入(億円)	944	1,126	+19.3%	419	+23.5%
有効貨物トンキロ(百万)	3,952	4,519	+14.4%	1,532	+16.2%
有償貨物トンキロ(百万)	2,105	2,457	+16.7%	848	+17.3%
貨物輸送重量(千トン)	390	447	+14.7%	154	+14.1%
重量単価(円/kg)	242	252	+4.0%	272	+8.2%

国内貨物事業	累計			単独	
	FY24Q3	FY25Q3	前年同期比	FY25Q3	前年同期比
貨物収入(億円)	215	231	+7.5%	83	+3.8%
有効貨物トンキロ(百万)	1,273	1,286	+1.1%	431	+0.1%
有償貨物トンキロ(百万)	235	239	+1.7%	81	▲7.2%
貨物輸送重量(千トン)	252	251	▲0.5%	85	▲10.0%
重量単価(円/kg)	85	92	+8.1%	97	+15.3%

【LCC事業】

LCCマーケットの需要増により、売上収益は前年比+12.0%の865億円と前年を上回ったものの、EBITは前年比▲10.5%の76億円となりました。

■ZIPAIR

インバウンド需要の取り込みが一時的に伸び悩むもマーケットの需要に柔軟に対応し、前年比+9.6%の増収を達成しました。

ZIPAIR	累計			単独	
	FY24Q3	FY25Q3	前年同期比	FY25Q3	前年同期比
旅客収入(億円)	517	566	+9.6%	183	+10.8%
有償旅客数(千人)	1,018	1,033	+1.4%	358	+6.0%
RPK(百万人キロ)	5,817	6,221	+6.9%	2,063	+8.9%
ASK(百万席キロ)	6,947	8,275	+19.1%	2,630	+23.8%
有償座席利用率(%)	83.7%	75.2%	▲8.6pt	78.5%	▲10.7pt
単価(円)(1)	50,764	54,855	+8.1%	51,284	+4.5%

(1) 単価=旅客収入/有償旅客数

■SPRING JAPAN

マーケット状況は不安定ながら、北京・上海(浦東)線など大都市を中心とした堅調な需要を確実に取り込み、前年から増収増益となりました。

SPRING JAPAN	累計			単独	
	FY24Q3	FY25Q3	前年同期比	FY25Q3	前年同期比
旅客収入(億円)	137	172	+25.3%	48	+35.8%
有償旅客数(千人)	738	820	+11.2%	243	+21.4%
RPK(百万人キロ)	1,048	1,348	+28.7%	391	+18.7%
ASK(百万席キロ)	1,344	1,530	+13.8%	457	▲1.4%
有償座席利用率(%)	78.0%	88.1%	+10.2pt	85.7%	+14.5pt
単価(円)(1)	18,643	21,013	+12.7%	19,870	+11.8%

(1) 単価=旅客収入/有償旅客数

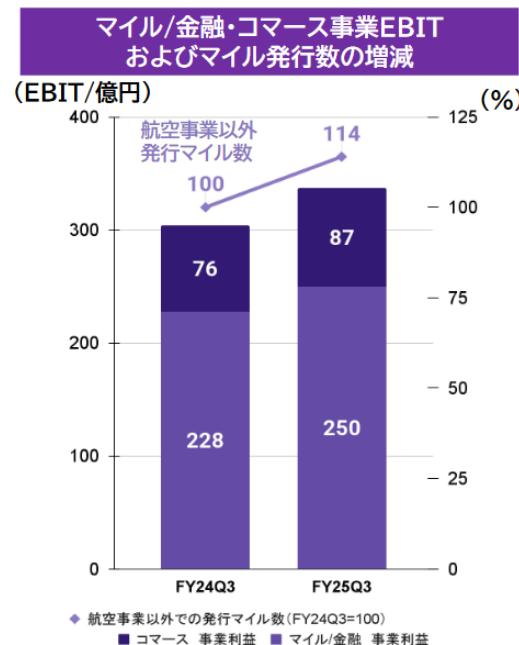


【マイル/金融・コマース事業】

旅客数の増加に加え、JALカード決済額の増加に伴う発行マイル数の増加などにより、売上収益は前年比+10.4%の1,668億円、EBITは前年比+11.2%の338億円となり、安定的に利益を伸ばしています。

【その他】

グランドハンドリングの受託事業において受託件数が大きく増加し、売上収益は前年比+3.5%の1,920億円、EBITは前年比+62.2%の119億円となりました。

3. JALグループ連結財政状態・キャッシュフロー状況

(億円)

連結財政状態計算書	FY24期末	FY25Q3末	前期末差
総資産	27,949	30,388	+2,439
現金及び現金同等物	7,490	9,002	+1,512
有利子負債	8,960	8,666	▲293
自己資本(1)	9,750	12,232	+2,482
自己資本比率 (%) (2)(3)	34.9% (41.1%)	40.3% (40.2%)	+5.4pt (▲1.0pt)

連結キャッシュフロー計算書	FY24Q3	FY25Q3	前年同期差
営業キャッシュフロー	2,516	2,224	▲291
減価償却費	1,159	1,235	+76
投資キャッシュフロー	▲2,221	▲1,239	+981
投資・出資額	▲2,357	▲1,469	+888
フリーキャッシュフロー (4)	294	984	+690
財務キャッシュフロー	▲502	497	+999

(1)親会社の所有者に帰属する持分

(2)親会社所有者帰属持分比率

(3)()内の数字は、ハイブリッド・ファイナンスおよび永久劣後債を加味した格付評価上の数値

(4)営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー

4. 直近の取り組み

【フルサービスキャリア事業】

旅客

➢ 2026年1月17日から成田=デリー線を開設し、成田を東南アジア・南アジアと北米を結ぶハブとして強化し、ネットワークを拡大します。また2月15日搭乗分からは、日本とインドを結ぶ3路線においてもインディゴとのコードシェアを開始し、お客様の利便性向上に貢献します。



➢ JTA初の国際線定期便として、那覇=台北(桃園)線が本日運航開始しました。訪日需要を中心とする旺盛な需要にお応えするとともに、JALグループの路線ネットワークを活用し、沖縄の離島を含む日本各地への誘客につなげます。

貨物

➢ KALITTA航空と成田=シカゴ線で実施している定期貨物便のコードシェア運航を2025年12月10日から増便し、週5便で運航しています。成長著しいアジア=北米間の貨物輸送需要にお応えするため、北米線の輸送ネットワークをさらに強化してまいります。

➢ JAL CARGOの国際線輸送とJR東日本グループの列車荷物輸送サービス「はこビュン」を組み合わせた「JAL de はこビュン」を2026年1月13日に販売開始しました。日本各地の地産品の海外輸出を促進し、地域経済・物流の活性化につなげてまいります。



商品・サービス

➢ アプリやWebサイトなど、お客様との主要なデジタルタッチポイントを段階的にリニューアルするプロジェクト「New JAL Digital Experience」を2025年11月27日より開始しました。お客様の日常と旅をつなぐデジタル体験にさらに磨きをかけ、より一層魅力的なサービスの提供に努めてまいります。

➢ 国際線プレミアムエコノミー・エコノミークラスで提供しているワインを2025年12月1日よりリニューアルしました。従来のペットボトル素材での提供から、JALとして初めてリサイクル可能で遮光性・気密性に優れた軽量ガラスボトル(ライトウェイトボトル)を採用することで、長期保存による品質劣化を防ぐとともに、環境への配慮を追求します。

【LCC事業】

➢ ZIPAIRは、毎日運航している成田=ヒューストン、サンノゼ、バンクーバー、シンガポール、バンコク、ソウル線を冬季期間において一部増便します。また、2026年2月~3月に成田=オーランド線のチャーター便を運航します。日本から米国フロリダ州オーランドへの直行便(旅客便)は史上初の取り組みです。

【マイル/金融・コマース事業】

➢ 国内線特典航空券サービス「どこかにマイル」は、2025年12月12日で10周年を迎えました。これまでに70万人以上のお客さまがご利用され、そのリピート率は7割以上と、大変ご好評をいただいております。予想外の旅先との素敵な出会いを提供し、新たな旅の楽しみ方として、これからもサービスを磨いてまいります。



【地域活性化】

- 地域資源とJALブランドを融合させた滞在型観光モデル「JALオーベルジュ富良野」を2026年冬に開業します。季節によって需要が偏りやすい地域においても、「食」を目的とした滞在を増やし、通年で新たな人流を生み出すことで、今後は道内他地域においても「JALオーベルジュ」を展開していきます。オーベルジュという日本では新しい観光モデルを確立し、新たな関係・つながりを創出します。

【サステナビリティ】

- 東京(羽田・成田)の国内主要2空港において、自動運転レベル4(特定条件下での完全無人運転)に対応したトヨタ自動車の実用化を2025年12月15日より開始しました。2空港で同時にレベル4の実用化を行うのは、国内初の取り組みとなります。導入台数や走行エリア、対象空港の拡大を目指し、持続可能な空港グランドハンドリング体制の構築に貢献します。



- 「航空機による大気観測プロジェクトCONTRAIL」を、2025年12月4日から新たにボーイング787-9型機により開始しました。2025年度中には4機の追加改修も予定しており、新たに観測体制が強化されることで、インドや赤道域での観測再開や中東での初めての観測も期待されています。

【人財・多様な働き方】

- JALグループ6社の客室乗務員および、国内56空港・海外40空港の旅客サービススタッフ、約1万4千人の社員(委託先社員を含む)が、業務中にスニーカーを着用できる運用を11月13日より開始しました。スニーカーを制服の選択肢に加えることで、社員一人一人がより働きやすい環境を整え、より細やかでお客様に親しみを持っていただけるサービスを提供してまいります。
- ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)に取り組む企業を認定・表彰する日本最大のアワード「D&I AWARD 2025」において、最上位賞にあたる「D&I AWARD大賞」を受賞しました。航空会社としては初の大賞受賞となります。また、同認定において、2021年より5年連続で最高評価の「ベストワークプレイス」に認定されました。

※従業員数3,001人以上の企業部門にて



- JALグループと成田市が国家戦略特区を活用した規制改革を共同提案した、空港内の運転資格の制度改革に基づき、JALグランドサービスより、本邦初となる「外国免許特認」第一号取得者2名が誕生しました。国籍を問わず、意欲ある社員が早期に責任ある業務に就ける環境を整備し、JALグループが目指すDEIを加速させています。

【新事業領域】

- グローバル・アワード「Corporate Startup Stars 2025」の授賞式において、2年連続で「Top 100」に選出されました。オープンイノベーションを牽引するグローバル企業として、JALのコーポレート・ベンチャー・キャピタル(CVC)を中心とした先駆的な活動が高く評価されています。



以上